



## ケイウエル家のクリスマス

文学部 永瀬美智子

アメリカのクリスマスといっても、日本の正月が地域や家庭によって様々であるように、どの家庭でも同じ過ごし方をするわけではありません。ここに披露するクリスマスは、2009年度に私が海外研修で一年間2階の一室を借りて過ごしたフロリダ州タンパのケイウエル家のクリスマスの模様です。

ケイウエル家はタンパ東部を流れる川沿いに広がる高級住宅街リバーヒルズの一角にあり、2階建ての邸宅の一階には二階まで吹き抜けになった暖炉のある広いリビング、特別のダイナー用のダイニング・ルーム、普段食事をするダイニング・キッチンとトイレがあり、2階には、寝室、パウダールーム、ウォークインクローゼット、バスルームがセットになったスイートが3つありました。2階のどの部屋からもバックヤードを見渡すことができ、日本の家なら10軒は建てることのできるほどの広いバックヤードは川まで続いていて、川岸の船着き場には時々川遊びで乗ったモーターボートが繋いでありました。

この家には南フロリダ大学で教鞭をとるジョーンと、彼女の一人息子でその年に大学生になったばかりのステーブンの二人だけしか住んでいませんでしたので、空いていた部屋を私が借りたというわけです。

一般的にアメリカのクリスマス・シーズンは、11月の第4木曜日の感謝祭が終わると始まります。リバーサイドヒルズに立ち並ぶ家々は、クリスマス時に家の外に様々なオーナメントやライトを付けて一斉に飾ることが規約で定められているとのことで、ジョーンも家の一階の屋根に沿ってライトを取り付け、前庭にライ

トで飾った鹿や木々にライトを付けて点滅させました。通りの突き当りにある家は、2階の屋根まで家全体をライトで飾るために毎年業者を頼んでいるそうで、一際華やかでした。日本でも近年家の外をライトで飾る家があり、あまり珍しくないかもしれませんが、リバーサイドヒルズ通りにライトアップした家々が立ち並ぶ光景は、まるでディズニールランドのようだと、当時、研修先の南フロリダ大学から車で戻ってくる度に思ったものでした。

本来ならばクリスマス・ツリーも同時に用意するはずですが、ジョーンがモミの木を業者に運んでもらったのは、12月20日のことでした。日本でもクリスマスケーキが25日になると安売りされるように、アメリカでも投げ売りがあるようで、大きなモミの木がたった50ドルだったとジョーンは満足そうでした。そのモミの木のてっぺんに、ステーブンが背伸びをして星を飾ったのですが、彼の身長は2メートル余りあるので、木の高さは約2メートル半はあったと思います。木をリビングに立て、ジョーンが飾りつけをするのを私も手伝いました。

それまで私は、アメリカでは24日のクリスマス・イブは皆パーティで楽しみ、25日は教会へ行くものだと思っていました。確かに日本にいるアメリカ人の知り合いに聞いても、その通りだと言っていましたので、それが一般的かもしれませんが。ところが、ジョーンが通うプロテスタント・エписコーパル教会(米国聖公会)では、クリスマス・ミサは25日ではなく24日の夕方に



ゴッド・チャイルドを抱っこしたジョーンとステーブン（バックヤードにて）

行われ、24日の夜から25日にかけては久しぶりに集まる親族のための時間になっていたようです。日本ではクリスマスは恋人たちのためのイベントのようですが、アメリカでは家族や親戚が集まる機会であり、日本の正月に当たると思いました。



ケイウェル家では、ジョーンの恋人フランク、フランクのお母さん、フランクの息子一家、テキサスからの友人を迎えました。クリスマスは家族の集まる機会と述べましたが、ジョーンとフランクは翌年に結婚したので、このときはこれから家族になる人々の顔合わせを兼ねていたことになります。

教会から戻って来た後に料理好きのジョーンの手作りのクリスマス・ディナーを楽しみました。クリスマスは七面鳥が広く知られていますが、七面鳥は身体がだるくなる成分が含まれているという理由で七面鳥ではなく、チキンの丸焼きがメインディッシュで、普段使用していないダイニング・ルームでの食事は特別でした。

翌日25日の午前中はクリスマス・ツリーの下に積んであったプレゼントを1つずつ開けてプレゼントを見せ合いました。私は、プレゼントは1人に1個だと思い込んでいましたが、ジョーンはスティーブンに5個、スティーブンは私に時計を初め3個もプレゼントを用意してくれていて、私は彼らにそれぞれ1個ずつだったので申し訳ないような気持ちになりました。ジョーンとフランクからはレザージャケットの他に、暖炉の脇に吊り下げてあった大きな靴下の中に私への缶ビールが1ダース入っていました。でもこのビールを冷蔵庫に入れておいたら、いつの間にかスティーブン（18歳）に飲まれてしまい、後に自分のうかつさを悔やむことになったのです。

## キリスト教とドイツの祝祭 —クリスマスを中心に—

文学部 鈴木 康志  
河合まゆみ



2020年のドイツの法定休日

- 1月1日 元旦 Neujahr
- 1月6日 聖三王来朝の日 Heilige Drei Könige  
(一部の州のみ)
- 4月10日 聖金曜日 Karfreitag ☆
- 4月12日 復活祭の日曜日 Ostersonntag ☆
- 4月13日 復活祭の月曜日 Ostermontag ☆
- 5月1日 メーデー Tag der Arbeit
- 5月21日 キリスト昇天祭 Christi Himmelfahrt ☆
- 5月31日 聖霊降臨祭の日曜日 Pfingstsonntag ☆
- 6月1日 聖霊降臨祭の月曜日 Pfingstmontag ☆
- 6月11日 聖体祭 Fronleichnam (一部の州のみ) ☆
- 8月15日 マリア被昇天祭 Mariä Himmelfahrt  
(一部の州のみ)
- 10月3日 ドイツ統一の日 Tag der Deutschen Einheit
- 10月31日 宗教改革記念日 Reformationstag  
(一部の州のみ)
- 11月1日 万聖節 Allerheiligen (一部の州のみ)
- 11月18日 贖罪記念日 Buß- und Betttag (一部の州のみ) ☆
- 12月25日 第一クリスマス das erste Weihnachten
- 12月26日 第二クリスマス das zweite Weihnachten

ドイツの生活習慣や祝祭はキリスト教に深く根ざしています。上に挙げたドイツの法定休日のうち、1月1日の新年、5月1日のメーデー、10月3日のドイツ統一の日を除いて、すべてがキリスト教にちなんだ祝日です。ドイツの祝日には固定祝祭日と移動祝祭日(☆)があります。固定祝祭日は日本の祝日のように日にちが決まっていますが、移動祝祭日はキリスト教の祝祭に関わるもので、キリスト教会暦の計算に